123-1　深大寺で蕎麦を美味しく食べるために歩く(6.0km・9km)

この地は飛鳥・奈良時代の仏教伝とともに多くの渡来人が移り住み、独特の文化を築いてきた。特に多摩川・野川・仙川沿いの「布づくり」は、調布・布田などの地名の由来にもなっている。

その調布・布田から深大寺の自然と歴史が交差する散歩道散策をしたのち深大寺そばを楽しむ。

【道順】

（調布駅・）布田駅→常性寺→国領神社→祇園寺通り→祇園寺→調布市野草園→都立農業高校神代農場（湧水）→青謂神社→深大寺水生植物園→深大寺城址→深大寺（湧水）→深大寺そば→（短縮はバス移動→つつじヶ丘駅）虎狛神社→ 布多天神社→大正寺→調布布多宿→京王線・調布駅

【深大寺そば】

かつて深大寺蕎麦は、土地の人々にとっては、お客様へのおもてなし、『ごちそう』であった。お寺さんが参詣の人や、檀家さんに蕎麦を振る舞ったように、お客様へのそば振る舞いがおもてなしであった。今でも土地の古老から蕎麦の話を伺うと、最後にかならず、「そばはごちそうだった」という言葉が聞かれるという。

・常性寺

常性寺は正式には「医王山長楽院常性寺」と称し、鎌倉時代に創建された由緒ある寺院。「調布不動尊」と称され広く皆様に親しまれている。

・國領神社

御神木である境内の藤の大木「千年乃藤」で有名。

そして、境内西北にある蔵には祭礼に使用する神輿と大太鼓が見える。

・祇園寺

深大寺の満功上によって天平年間（729～49）に開山されたといわれる古寺。

野川近くから昔移された伝えられる薬師堂には、平安後期の本尊・薬師如来像、菩薩像を始め室町期の仏像などが安置されている。

・調布市野草園（湧水）

多摩地区に自生している野草を集めた園には、300 種、1 万本の野草が植えられている。園内北端には湧水もある。

・佐須の「禅寺丸」古木

「禅寺丸」は、柿の一品種で、川崎市王禅寺の等海上人が、鎌倉時代に発見し、栽培を奨励したのが始まりといわれる。王禅寺の王がいつのまにか略され、実の形をあらわす「丸」がついて、「禅寺丸」という名になったといわれる。調布市内の旧家の庭先には、この柿の木が植えられているから探してみる。

・都立農業高校神代農場（湧水）

谷戸に広がる都立農業高校神代農場には、湧水のほかカタクリも自生しているが一般公開は週に一度だけである（原則木曜日、10 名以上は要事前連絡）。

・青譌（あおい）神社

深大寺の寺域にあり、眼下を川が流れるところに鎮座している。弥生的稲作に適した地域であり、付近に弥生遺跡がある。また豊富な湧き水があり、水神を祀ったものとされる。

清水が青波をたたえていることから「青沼天神社」とも称された。

・深大寺水生植物園・深大寺（湧水）

深大寺の開創は、天平 5（733）年に満功上人が開山したといわれており、天平時代、深沙大王の霊地とされている。この地の豊富な泉水は、昔から住む人々の心に水神信仰をもたらし、また深大寺の名は水神と関係のある深沙（じんじゃ）大王に由来している。深大寺の境内 2 万坪は、現在幽邃な林に囲まれているが、何度かの火災を経ており、現存する最も古い建物としては、山門(元禄 8 年)、常香楼（天保 4 年）がある。また 3 月 3 日・4 日には、厄除け大師祭とだるま市が行われる。

・深大寺城址

古くは武蔵七党の狛江氏の築城と伝承される。

この地は戦国期に扇谷上杉氏の所領であったが、天文 6（1537）年、扇谷上杉朝興は河越城で死去、朝定が跡を継いだ。上杉朝定は難波田広宗に命じて深大寺城を整備するが、北条氏綱は深大寺城に付け城を築いて封鎖し、直接河越城に進撃、三ツ木で朝定の叔父、朝成に勝利、上杉軍は総崩れとなり、河越城を捨てて松山城に退却した。扇谷上杉氏は深大寺城から徹底し廃城となった。水生植物園周辺に曲輪、堀、土塁が残る。

・布多天神社

布田 5 宿の総鎮守である布多天神社本殿は社蔵する棟札から江戸時代宝永 3 年（1706）に再建されたと思われる。一間社流造（：正面の柱間が一つである流造をいう）、こけら葺、向拝のつく小社である。当本殿は小社ながら装飾などに時代の特色が表われており、棟札によ布田天神の参道。調布駅北口商業地区の一部をなす。朝ドラ後、布田天神の参道には鬼太郎など水木しげるの妖怪キャラクターのモニュメントが造られた。

・調布布多宿

布多（布田）には、甲州街道の国領宿（日本橋より 4 番目の宿場）・下布田宿・上布田宿・下石原宿と上石原宿（同 8 番目）の 5 宿があった。しかし、旅籠は幕末の天保 14（1843）年ころでも 9 軒しかない宿継ぎ中心の宿場で、本陣と脇本陣が無く旅籠だけの小さな宿場であったが、布多天神社の市場は賑わった。

調布という名称は昔の税金である租庸調の調（その土地の特産物を納める）で布を納めていたことに由来する。そのため以前は当地の他にも都内に幾つかの「調布」地名があった。天保 5（1834）年には、上石原の農家宮川家で、後に幕末動乱の京都で新選組局長として討幕派と戦い一躍名を高めた近藤勇が生まれた。

+＊＊＊+　オフィス　地図豆 Yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+